

◇**買い物環境の充実、観光地としての奈良の魅力の向上、宿泊観光客の増加を図り、県内消費の拡大を図ります。**

- 新**（仮称）奈良県プレミアム（生活応援）商品券を発行[386]
- 市町村、商工会議所等が取り組む地域版プレミアム商品券発行を支援[20]
- 新**商店街等と市町村の協働により地域商業活性化のための課題解決の手法を検討[1]
- 新**鉄道駅前広場を活用し、農産物を生産者が直接販売するマルシェをモデル的に実施[4]
- 買い物など利用目的に応じたバス交通の確保[214]
- 記紀・万葉プロジェクトの推進（**新**「大古事記展」の開催、**新**「記紀・万葉プロジェクト」広報PR、**新**「全国観光ボランティアガイド記紀サミット」開催等）[167]
- 春日大社式年造替を契機とした誘客促進キャンペーン[307]
- 新**ユニバーサルツーリズム推進のため、モニターツアー等を実施[10]
- 奈良の魅力が感じられる贈り物商品の開発・発信等（**新**奈良の定番の菓子土産等の創出）[1]
- 新**本県の観光振興に意欲を持って取り組む宿泊施設と連携し、誘客活動の展開、独自の旅行商品の企画とセールス、出版社とタイアップした観光情報発信[27]（再掲）
- 新**宿泊施設を創業しようとする者に対する無利子、無保証料の資金を創設（再掲）



開発中の新しいお土産



なら記紀・万葉名所図会

※[]はH26当初予算とH25.2補正予算の合計額、単位：百万円

◇求人・求職のマッチングの充実、地域雇用の創出、若者・女性の就労支援、県内ワーク・ライフ・バランスの確立に力強く取り組みます。

- しごと*ん*センターに、しごとマッチングアドバイザーを増員し、求人求職のマッチングの取組を充実（**新**県内企業と大学キャリアセンターとの連携の強化等）[21]
- 新**高等技術専門校に就業支援員を配置し、就職・起業を支援[8]
- 矯正施設出所者等への就労促進（**新**民間企業によるインターンシップの実施、事業者向けセミナーの開催等）[10]

- 外での就労が困難な方を対象に在宅就労に向けた訓練・就職支援を行うとともに、企業に対し制度導入を促すセミナーなどを実施[88]
- 県内に居住している退職者を採用し、県内企業等へコンサルタントとして派遣する雇用モデルの実施と結果検証[19]

- 新**就職活動準備段階の大学3回生等を対象に、県内企業やOB等の話を聞く就活準備セミナーを実施[2]
- 新**就職活動を支援するための就職支援員を配置するなど、高校生のキャリア教育を支援[7]
- 語学力を活用した女性等の就労につなげるため「翻訳者養成塾」を開催[3]

- 新**少子化対策及びワーク・ライフ・バランスの推進のため、雇用保険の育児休業給付金に上乘せを実施する県内事業所に助成[261]
- 働きやすい職場づくりに積極的に取り組む企業を募集し、登録・表彰[5]



県内企業による企業合同説明会（大阪市内）



無料職業紹介所（しごと*ん*センター）

◇奈良の美味しい「食」の創造と発信、マーケティング・コスト戦略の実行による県産農産物の振興、意欲ある担い手の育成、農村地域の活性化を図ります。

- 新**東京都内の百貨店において、奈良の食と観光フェアを開催[6]
- 新**県産食材にこだわったレストランの東京での開設準備[1]
- 県産農産物の首都圏におけるセールス強化（**新**スーパー等での奈良フェアの実施、**新**産地見学会の開催等）[17]

- チャレンジ品目、リーディング品目の高品質安定生産に向けた支援（**新**大和野菜のブランド力向上等）[15]
- 農業研究開発センターの整備と研究機能の高度化[391]

- （仮称）なら食と農の魅力創造国際大学校に6次産業化研修拠点を整備 [930]

- 新**農地の中間管理等を行う（仮称）なら担い手・農地サポートセンターを設置するとともに、その財源となる基金を造成[422]



（仮称）なら食と農の魅力創造国際大学校外観イメージ



（仮称）なら食と農の魅力創造国際大学校
実践オーベルジュ棟内部イメージ

◇県産材の利用拡大、森林の生産能力の向上を図ります。

- 公共建築物の木造化・内装等木質化を推進[220]
- 新**10月を「奈良の木づくり運動推進月間」とし、奈良の木の魅力を幅広くPR[6]
- 新**県産材を活用したオフィス家具の開発と市町村や県内企業へのPR[6]
- 首都圏の商業施設や住宅等への新たな販路の開拓（**新**吉野材見学ツアーの開催、**新**「奈良の木フォーラムin東京」の開催等）[13]

- 奈良型作業道の重点整備、林業機械導入支援等による木材生産の拡大[342]



奈良県産材を使用した住宅

※[]はH26当初予算とH25.2補正予算の合計額、単位：百万円

2 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた国際観光、文化発信、国際交流、スポーツ振興、にぎわいの拠点整備の重点的取組

◇ターゲットを明確にした奈良の魅力の効果的な発信、外国人に対するおもてなしの環境の整備、コンベンションなど多くの集客交流が見込まれるイベントの誘致を図ります。

- 近隣府県・民間団体と連携し、東アジア・東南アジア・欧米等を対象に国のビジット・ジャパン地方連携事業を活用した効果的・効率的な観光客誘致を展開[15]
- 新**新市場開拓のためのベトナムプロモーション[2]
- 新**奈良公園と周辺地域におけるW i - F i 環境の整備[116]
- 猿沢荘を外国人観光客が交流・宿泊できる施設として整備[259]
- 新**外国人観光客が県内の駅等から主要観光地へ円滑に移動するために必要な多言語案内表示の現状調査及び改善計画の作成[3]
- 新**「奈良公園観光地域活性化特区通訳案内士」制度の創設と養成[4]
- 奈良へのコンベンション誘致の強化（コンベンション等の開催経費等を支援、**新**宿泊を伴うコンベンション等の主催者の視察経費を支援[2]
- 南部地域における宿泊を伴う会議等開催に対する支援[20]
- 現奈良公園管理事務所をコンベンション施設として改修[406]



若草山焼きを見学に来られた外国人観光客の皆さん



外国人観光客の交流施設として整備する猿沢荘